

特集 知立の防災を考える

命を守る

準備

できていますか。

「災害は怖いけど何を準備すれば良いかわからない」
「引越してきたけど誰に相談すれば良いの？」

防災に対して意識は違えど皆さんそれぞれ感じることがあると思います。今回の特集では災害時の「市民の皆さんでできること（自助）」・「市でできること（公助）」・「地域の皆さんが共にできること（共助）」についてお伝えします。

知立市の予想被害

南海トラフ地震が発生した場合、
知立市では最大で

死者約200人

建物被害約4千300棟

と予測されています。

また、猿渡川・逢妻川の付近では
液状化の危険性も予測されています。

南海トラフ地震のような大規模災害が発生した際には公的機関による「公助」だけの対応では限界があります。

そのため、発災直後の対応において、自らの身を自らで守る「自助」と地域社会が協力してお互いを守る「共助」の2つの「助」が大きな役割を果たします。



ハザードマップは市ホームページで見ることができます。

まず、個人で出来ることとして、

「1週間分以上の食料や飲料水の備蓄」「家具の固定」をぜひ、お願いします。市では公助の一つとして、家具固定器具の無料配布も実施しています。詳しくは知立市ホームページをご覧ください。☎(95)0160へお尋ねください。

地域の皆さんでできることとして、地域の防災訓練や市の総合防災訓練に参加いただき、日頃から防災への関心を高め、地域防災力の向上に取り組んでいただくことをお願いします。



知立市すぐメール

市民の皆さんの防災対策などに役立てていただくため、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンに、避難勧告等の緊急かつ重要な防災情報などを電子メールにより配信します。

また、防災情報は、多言語の登録をしていただくと、英語、ポルトガル語、中国語、やさしい日本語で一部配信します。

登録は、右にあるQRコードなどのいずれかの方法により無料で登録できます。

〔下記のいずれかの方法で登録〕

・QRコード



登録無料!

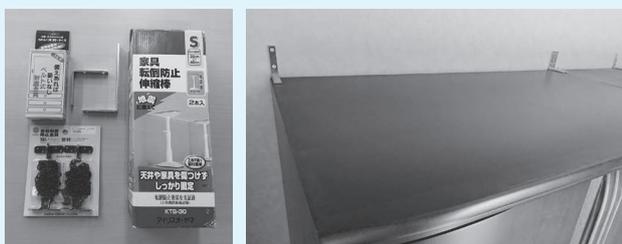


・空メールアドレス t-chiryu@sg-m.jp
(送信元アドレスは chiryu@sg-m.jp です)

・登録サイト (PC)
<https://service.sugumail.com/chiryu/member/>

・登録サイト (携帯)
<https://service.sugumail.com/chiryu/>

家具転倒防止推進事業



イメージ

タンスなどの家具が倒れてくることによる被災を防ぐため、家具転倒防止器具の無料配布を行っています。

地震に備えて、家具転倒防止器具を取り付けましょう。高齢の人や障がいがある人で取付けが難しい人には、市が委託した者が代行して取り付けるサービスを行っております。

○器具の種類 (種類により配布できる数が決まっています。)

L型金具、ベルト式、チェーン式、ポール式 (つっぱり棒)

○申請時間 平日 8:30~17:15

○申請方法 安心安全課窓口で申請

防災ラジオ等配布事業



イメージ

防災ラジオとは、AM、FM放送以外に、防災行政無線の放送を受信するラジオです。

普段から防災行政無線が聞こえづらい地区の人や災害時の備えとしてぜひご検討ください。

○対象者 ※1台まで
市内在住の世帯主または事業主

○負担金
2,000円 (世帯主)
3,000円 (事業主)

○申請方法
安心安全課窓口へ負担金を持ってお越しください (受付時間は、家具転倒防止推進事業と同じです。)

防災士養成補助事業

知立市では、平成29年度から災害時に地域で活躍する防災士を養成するため、防災士資格取得に対して、次のとおり補助制度を設けましたので、ぜひご活用ください。

【補助対象経費および補助金の額】

①日本防災士機構が認証した研修機関が実施する研修講座受講料

②防災士資格取得試験受験料

③防災士認証登録料

①~③の経費のうち補助対象者が負担した額で、限度額1万5千円 (1人につき1回限り)

※詳しくは安心安全課 (☎95-0160) へお問合せください。



商品紹介

いつでも、どこでもすぐ食べられる、保存用食品としても最適な「そのまんま OKカレー」。

ご飯も必要なく、賞味期限5年の長期保存 OK。特定原材料7品目不使用。温めても、そのままでもおいしく食べられます。

味も本当に美味しい！普通に晩御飯として食べられるぐらい…笑

このカレーはルーだけでなくご飯も入っているので、本当にそのまま1食として食べられるからいいよね！

災害時では水も不足する可能性が高いから、調理せずに食べられるのは物と時間の節約になるかな。

金賞

三徳屋株式会社

そのまんまOKカレー 甘口／辛口

各486円（税込）



備蓄食料を 実際に食べてみた

知立市では災害時の備蓄食料として想定避難者数の3日分を備蓄しています。しかし、行政の備蓄だけで全ての人の食料を確保することが難しいのが現状です。

そのため、各家庭にて1週間分以上の備蓄を呼びかけていますが、何を備蓄したら良いかわからないとの声がありました。そこで、今回は日本災害食大賞（一般社団法人防災安全協会主催）で入賞した3品を安心安全課職員が試食して、最新の備蓄食をレポートします！備蓄食料購入の参考に少しでもなればと思います。

※市役所では販売していませんので、ご注意ください。

銀賞

近藤防災株式会社

Hotぐるべん7備蓄王そぼろ玉子とし丼

1,296円（税込）

商品紹介

食器やスプーンも内蔵されていて、ヒモを引くだけ8分間で出来上がる。保存場所を選ばず、3年間保存できます。



災害時でも温かいご飯を食べたいときにすごくいい！

ご飯と具、発熱剤が入っていて約10分で温められるから嬉しいよね。

値段は高いみたいだけど、消費期限が近づいたら通常のご飯として食べれば、買い替えもできるかも！

忍者飯の名前のおり、調理が不要ですぐにご飯として食べることが出来るのがすごい！

少しやわらかいご飯でお年寄りでも食べやすいと思う！

銅賞

株式会社味きっこう

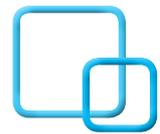
忍者食ひじきごはん

3,950円 ※セット価格

商品紹介

淡路島の海岸で採れたひじきをたっぷり使用して多くの栄養素が含まれ、血行促進・貧血予防などたくさんの効能があります。災害時にもしっかりと栄養が取れる商品。





南海トラフ地震から 地域と家族を守るために

名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫教授に南海トラフ地震と西三河地域の被害についてお話を伺いました。

地球は卵のような構造で、黄身の核、自身のマントル、殻のプレートでできています。そして、プレートが10

数枚に分かれています。それぞれがばらばらに動いています。日本は、4つのプレートがぶつかる世界でも珍しい場所にあります。私たちの住む南の太平洋の下には、南海トラフという深い溝があります。トラフとは海溝より浅い溝のことです。ここでは、南から移動してきた海のプレートのフィリピン海プレートが陸のプレートのユーラシアプレートの下に沈み込んでいます。沈み込み始める場所にできた溝が南海トラフで、東は駿河湾から西は宮崎県沖まで広がっています。

南海トラフ沿いでは、100年〜150年の間隔で巨大地震が起きてきました。

これを南海トラフ地震と呼びます。

最近の3つの地震は、1707年宝永地震、1854年安政地震、1944年昭和東南海地震・46年南海地震です。海の地震なので、揺れに加えて津波も襲ってきます。東南海地震では西三河でも、碧南市や西尾市を中心に多くの被害が出ました。近くの半田市では、中島飛行機の山方工場がつぶれて、多くの学徒たちが命を落としました。



名古屋大学減災連携研究センター長
福和伸夫教授

南海トラフ地震の前後には、内陸で沢山の地震が起きます。東南海地震の37日後には三河地震が起き、幸田町や西尾市・安城市を中心に2千人を超える犠牲者を出しました。当地は、戦争末期に2つの震災と戦災を経験することになりました。

西三河地域は、海に面した場所です。津波や浸水の危険性があり、矢作川流域の軟弱な地盤は強い揺れや液状化の危険が、北の中山間地では土砂崩れや孤立の危険性があります。

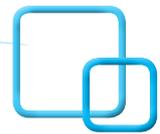
そういう意味で、西三河の中心にある知立市は平坦な台地が広がるので、比較的安全な場所です。ただ、逢妻男川周辺は液状化の心配があり、木造密集地域は火災の心配があります。



また、交通の要衝なので、帰宅困難者の発生も心配されます。

南海トラフ地震の被害は、東日本大震災のそれを遙かに上回ると予想されます。残念ながら、他地域からの支援は余り期待できません。行政の力にも限界があります。ですから、自らの命は自ら守り、隣近所で助け合う、といった自助と共助が基本になります。家族の命を守るには、家が壊れないように、塀が倒れないように、家具の下敷きにならないように対策することです。つぎに、電気、ガス、水道が止まっても生きていけるよう最低限の備蓄をし、さらに、災害後に、皆さんで助け合い、逞しく回復する力を持つことが大切になります。「備えあれば憂いなし」で「災い転じて福となす」知立市を目指していきましょ。





人と人の連携から生まれる 「共助の輪」

災害時に地域の中心的な役割を担っていただく自主防災会の皆さん。普段の活動内容や地域で連携していくことの大切さについてお話しいただきました。

災害時には負傷者の救出救護、住民の安否確認・避難誘導、避難所運営などに従事します。特に大規模災害が起こった場合、電気などのライフラインの被害により、消防などの公的機関は応急活動に追われます。

そのような事態に備え、住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。そこで、近年は近隣市の自主防災会などとの「顔の見える関係づくり」と「防災の啓発活動」をテーマに活動しています。

世代や地域を超えた

連携

近隣市の自主防災会との交流事業では、豊田市や西尾市の自主防災会にお邪魔し、先進的な事例を学び、知立市の自主防災活動に活かしています。大規模災害時では近隣市とも協力していくことが必要なため、自主防災会としても関係を構築し、大規模災害に備えています。



知立市自主防災会連絡協議会の皆さん
左から相談役關勝さん、会長神谷正明さん、
相談役加藤浩一さん

啓発活動では、知立よいところ祭りでの「シェイクアウト訓練」や知立市民大運動会での「防災バケツリレー」等をとおして、広く市民の皆さんに防災について考えてもらう機会を設けています。

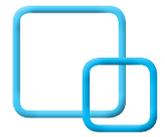
また、今年度は中学生に地域の防災を学び、総合防災訓練に参加してもらうため、知立中学校の生徒に対し自主防災会の取組み等を紹介する授業を行いました。子ども達も将来地域を担う一員として「防災リーダー」になってもらうことで市全体の防災力アップを図っていきたくと思っています。



今後も各団体と関係性を深めていくことはもちろんですが、自主防災会の取組みをもっと多くの市民の皆さんに知っていただき、防災に関心を持つきっかけとなり、総合防災訓練への参加、その先の市の防災力アップに繋がってほしいと思います。

地域防災で一番大切なことは「人と人のつながり」です。平時から防災に関心を持ってもらう人を増やしていく、防災の輪を広げていきたいと思えます。





地域での繋がり まずは身近なママ友から

子育て中のお母さん目線で防災について発信している、知立市・刈谷市で活動中の防災ママかきつばた代表の高木一恵さんにお話をお聞きしました。

防災ママかきつばた

とは？

「今のままでは、子どもを守るところか、自分の命さえ守れない！」3歳の息子を抱えながら、防災の講座を受講しました。東日本大震災で被災した親子の話を聞き、どこか他人事のように思っていた災害のリアルに衝撃を受けました。自分の周りだけではなく、同じママたちにも伝えたいと思い、団体を立ち上げました。学生時代から取り組んでいた「まちづくり」と今の私



防災ママかきつばた
代表 高木一恵さん



防災ママカフェ@知立の様子

「子育て中のママ」の視点で防災をくらしに取り入れ、発信しています。お母さん・子どもたちが参加しやすい防災講座の開催や地域のイベントに出席しています。今では子育てサークルや自治会の皆さんに依頼されて講座も行っています。また、普段興味のない人にも防災を身近に感じてもらえるように各SNSで情報発信をしています。

それだけではなく、知立市など拠点地域の連携、全国の防災に取り組み皆さんと連携し、ゆるやかにつながっています。防災士・看護師のママも増え、より専門的な知識をもつママたちも増やしています。現在まで延べ2千人以上の親子に伝えていきます。ありがたいことに、全国放送のテレビ・新聞・雑誌などメディアにも多数掲載いただいています。

顔見知りの人を増やすことが大切だと思います。地域のイベントに参加したり、子育て支援センターや児童館のイベントに参加することで、楽しみながら、地域の皆さんと顔見知りになるきっかけになります。顔見知りからお友達へ、そして地域を好きになっっていくきっかけにしてほしいです。

防災memo

～お子さんのための防災リユックス～

おうちを安全にし、いざとなったら避難する準備も大切です。それに加え乳児のときは、マザーズバッグに防災グッズをたして、防災仕様に

お子さんが歩けるようになったら



お子さんに1つ防災リュックやポーチをご用意ください。私は、保険証などのコピーと一緒に子どもの特性や連絡先を書いた防災カードと一緒に入れています。また、絵カードがあると小さなお子さんや障がいがあるお子さん、日本語が得意ではない人も、コミュニケーションがとりやすくなると思います。

